

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校）  
 睦沢町立睦沢中学校

研究主題

「考え、議論する道徳」の実現を目指した授業づくり  
 — 話し合いを充実させ、多面的・多角的に考える授業実践を通して —

取組1 睦沢町が育てたい子どもの姿（他校種との連携）

連携1 睦沢町が目指すコミュニケーション能力

- 社会における自分の責任を自覚し、人と関わる子ども
- 相手を尊重しつつ、自分の意見をしっかりと言える子ども
- 自分の考えを相手が受け入れられるように表現する子ども



連携2 小学校との系統性を意識した年間指導計画の見直し

ペアやグループでの話し合い活動を取り入れた授業展開になるように、年間指導計画を見直した。1学年では小学校との系統性を意識して、5つの教材で役割演技を取り入れた。

「チーム睦沢」で育てる15歳の姿

自ら一歩をあゆみだす15歳	
人間力	社会力
社会を構成し、運営するとともに自立した一人の人間として力強く生きて行くための総合的な力	様々な人々とよい関係を創ることができ、つくり上げたよい人間関係を維持しながら、それまでの自分が学んで身に付けた知識や、努力して習得した技術や技能などを、自分が生きている社会のそこそこで、誰かのために役立てようと、自分から進んで発揮し活用する力
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会で役立つ知識・技能を身につけ、活用する子ども（基礎学力）</li> <li>○ 筋道を立てて物事を整理して考える子ども（論理的思考）</li> <li>○ 物事を多様な角度から考える子ども（創造力）</li> <li>○ 社会における自分の責任を自覚し、人とかわる子ども（コミュニケーションスキル）</li> <li>○ 失敗を恐れず何度で挑戦する子ども（忍耐力）</li> <li>○ 夢や目標を実現させるために、具体的な考えをもって行動する子ども（自分らしい生き方や成功を追求する力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自信をもって夢を語る子ども（知的好奇心）</li> <li>○ 様々な視点から疑問を抱き向上心をもって探求する子ども（知的好奇心）</li> <li>○ 相手を尊重しつつ自分の意見をしっかりと言える子ども（他者への配慮）</li> <li>○ 自分の考えを相手が受け入れられるように表現する子ども（人間への信頼感、大人への信頼感）</li> <li>○ 社会のできごとに関心をもち、行動する子ども（未知の人への関心）</li> <li>○ 郷土を知り、郷土を学び、郷土に生きる子ども（人間への信頼感）</li> </ul>

取組2 「考え、議論する道徳」の授業づくりの工夫

工夫1 充実した話し合い活動

どの場面でペアやグループでの話し合いが有効かを考え、教材によって話し合う形態を工夫した。スケールを活用した授業では、同じ考えをもつ生徒同士をグループにしたり、全員が違う考えのグループを作ったりと、教師が意図的に編成することで、より充実した話し合い活動になるよう配慮した。

工夫2 教材分析シートの活用

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」をもとに作成した。授業前に、内容項目の概要や指導の重点を確認して、本時のねらいや生徒の実態、発問等を記入し、教材を分析した。これはT2と情報を共有する際に有効であった。

工夫3 導入の工夫

アンケート結果や写真・映像を見せるなどして、教材の内容に興味や関心をもたせたり、ねらいに関わる問題意識をもたせたりする導入を行った。

工夫4 ねらいに迫る発問の工夫

発問は基本的に、導入時と中心発問、中心発問を生かすための前後の発問の3つ程度。中心発問はいくつか案を出し、生徒の反応を予想して、それがねらいに迫れているかどうかを検討し決定した。

道徳科教材分析シート

【教科名】 みんなが書く 心の色	【主題名】 支え合う喜び	【内容項目】 8-（9） 相互理解・寛容
------------------------	-----------------	----------------------------

①ねらい  
それぞれの立場や個性を尊重し、広い心で他者の意見を  
受け止めるために互いに高め合おうとする心情を育てる。

②生徒の実態  
・クラスではよく聞かない。  
・互いの長所を認め合うのを  
苦手とする（思慮期・思慮期）

③資料の特色  
「絆」の物語、物語の「絆」  
「絆」の物語、物語の「絆」

④評価  
広い心で他者を認め、自己と他者に高め合おうとする姿勢が  
表現できたか。

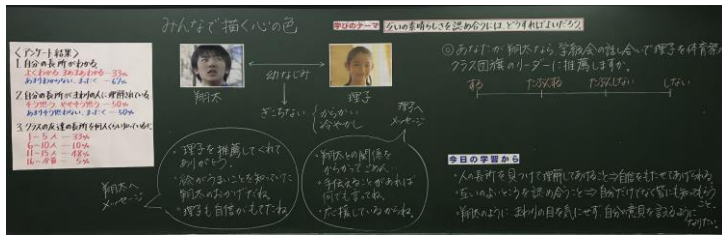
⑤中心発問  
親友の一人として、絆を「絆」に「絆」を送ろう。その際、自分が  
どのように態度や気持ちを伝えるか。

⑥中心発問を生かすための前後の補助発問  
あなたに「絆」を送ろう。絆をクラス団体のリーダーに推薦  
しよう。

⑦導入  
自分の長所を理解している人の  
割合  
友達の長所を理解している人の  
割合

⑧結果  
友達の意見を聞いて考えたこと  
感じたこと共有。

## 工夫5 板書の工夫



【生徒の思考を整理したり深めたりするための板書】

### 【ワークシートの内容】

- ①学びのテーマ ②中心発問を生かすための補助発問  
③中心発問 ④本時の振り返り ⑤自己評価

### 【ワークシートを活用した生徒の姿の見取り】

※以下の3段階に分けて見取り、終末には①→②→③の順で発表させる。

- ①教材の登場人物の言動や出来事にふれている。  
②ねらいとする道徳的価値を理解している。  
③ねらいとする道徳的価値を理解し、自分自身の生き方について考えている。

## 工夫6 ワークシートの工夫

**知らなかった景色**

組 番 氏名

学びのテーマ : 「支え合い」とはどのようなことだろう。

1. 彩香はケガをした経験から、どんなことを考えたのでしょうか。

2. 「支え合い」について新たに考えたことや、さらに強く考えたことはありますか。

---

3. 友達のを聞いて、改めてどう考えましたか。感じたこと、考えたことを書きましょう。

---

授業を振り返って	とても	3	2	1
自分の考えをもつことができましたか。	4	3	2	1
友達のを聞いて、自分とは違う考え方に気づき、自分の考えや新たな見方・考え方ができましたか。	4	3	2	1
これまでの自分自身を振り返り、今日学んだことや心に残ったことを、これからの生活にどのように生かしていきたいか考えることができましたか。	4	3	2	1

## 工夫7 TT道徳

- 学級担任と学年主任によるTTの授業を展開している。それにより、スムーズな指名計画や生徒の姿を見取ることができる。
- T1 : 生徒との対話のやりとりに集中できる。
- T2 : 主に板書、発言やワークシートから生徒の姿を見取る。



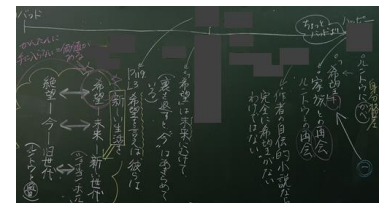
### 取組3 他教科との相乗効果を図るための授業実践

#### 実践1 発問や課題の提示の仕方

- 道徳科同様、中心的な発問から補助発問を考えたり、生徒の発言に追質問をしたりする。
- 導入時、身近な問題を取り上げたり、実物を見せたりして興味や関心を高める。

#### 実践2 対話的な学びを進める方法

- ペア・グループ活動を取り入れる      ○スケールの活用



【国語科でのスケール活用例】

### 主な成果と課題

- ねらいを焦点化することで、教材から離れ、自分との関わりの中で捉えることができた。
- 友達の多面的・多角的な考えを聞いて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。
- ペアやグループでの話し合いは、ねらいを達成するために教師が意図的にグループ編成をすることで、お互いの感じ方や考え方の交流が活発に行われ有効であった。
- ねらいに迫る中心発問で、深く考えられないときの効果的な補助発問を用意しておく必要がある。
- ペアやグループでの話し合いは、何について話し合うか（発問）を明確にする必要がある。

## 授業実践事例

中学校 第2学年 道徳科学習指導案

令和2年10月21日(水)

- 1 主題名 人間愛の精神を深める B(6) 思いやり、感謝 (県の視点「支え合う喜び」)
- 2 教材名 「知らなかった景色」(千葉県教育委員会 道徳教育映像教材)
- 3 主題設定の理由

本教材は、内容項目B(6)「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」をねらいとしている。生徒は、日々の生活の中で周りの人々に支えられていることに気付いてはいるが、思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じる時期にある。そこで、本時では思いやり、感謝が温かい人間関係を築く上で欠くことのできないものであり、自分が現在あるのは多くの人々によって支えられてきたからであるということを多面的・多角的に考えさせていきたい。また、千葉県オリンピック・パラリンピック教育とも関連を図りながら、感謝の心を他者との関わりに留まらず、多くの社会の人々への感謝へと広げていきたい。

### 4 本時の指導

(1) ねらい：多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、思いやりの心をもって人と関わろうとする心情を養う。

#### (2) 展開 (一部省略)

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点(○)評価(◇)
導入 5分	1 実態調査の結果を知る。	○「支え合い」からどのようなことをイメージしますか。 ・互いに相手を思いやる。	○事前調査を提示してから生徒に対して発問をする。
学びのテーマ：「支え合いとは、どのようなことだろう。」			
展開 35分	2 映像教材を視聴する。  (1)障がいのある人に対する主人公の気持ちを考える。  (2)主人公の気持ちの変化について考える。	○視聴のポイントを提示する。 ・障がいのある人への彩香の気持ち ・自分がケガをして分かった気持ち  ○彩香はなぜ、「車椅子の人になんで本気になるの」と言ったのでしょうか。 ・自分は車椅子の人とは違う。 ・普通のバレーボールとは違う。 ・パラスポーツは特別なもの。  ○彩香は、ケガをした経験から、どんなことを考えたのでしょうか。 ・生活上には不便なことが多い。	○登場人物を紹介する。 ○負けたくない強く主張するしおりに着目してしまうことが懸念されるため、彩香を中心に視聴させる。 ○映像を視聴させながら場面と内容を提示する。(T2) ○パラスポーツを知らないからこそ、軽はずみに言ってしまう彩香の気持ちを考えさせる。 ○しおりの発言や講師に謝る彩香の発言から、障がいをかかえている人に対する、彩香の思いを確認する。 ○一人で考えた後、ペア・グループワークにて自分の考えを伝え合う。

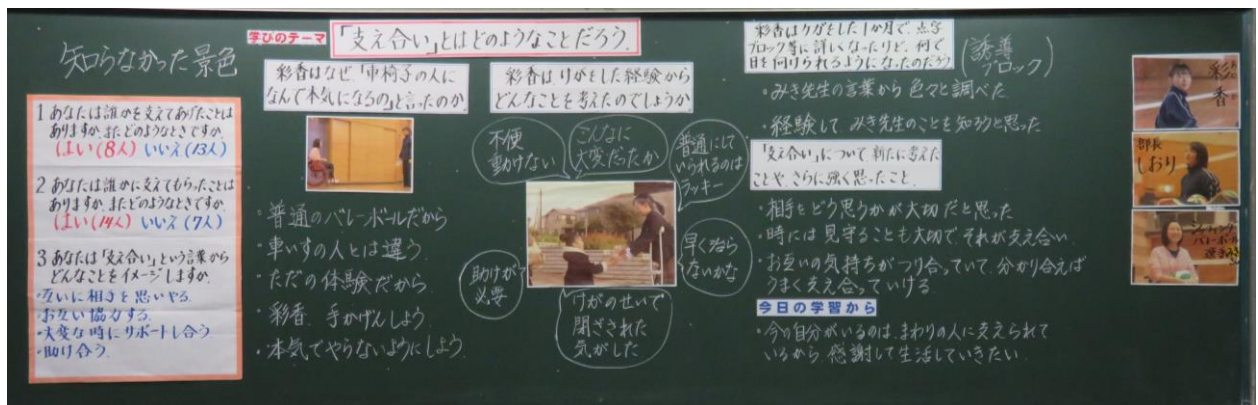
	(3)本時の主題について考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の生活は当たり前のことではない。</li> <li>・色々な人に支えられて生きている。</li> </ul> <p>◎「支え合い」について新たに考えたことや、さらに強く思ったことはありますか。</p> <p>○彩香がケガをした1ヶ月で、点字ブロック等に詳しくなったけど、何で目を向けられるようになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケガをして、少しの段差でも不自由だと分かった。</li> <li>・安全のための案内や設備がたくさんあり助けられた。</li> <li>・相手の困っていることや気持ちを考えて行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友人の考えで、新たな発見があれば、ワークシートに書き込む。</li> <li>○ポイントとなる生徒の発言を板書する。(T2)</li> <li>○学びのテーマに迫るために、補助発問や場面を用意して深く考えさせる。</li> <li>○彩香の気持ちや態度の変容から考えるよう助言する。</li> <li>○事前アンケートと(2)で新たに発見できたものがあれば、それを踏まえて考えさせる。</li> <li>○机間指導をして評価を行う。(T2)</li> </ul>
終末10分	3 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の意見を聞いて、改めてどう考えましたか。感じたこと、考えたことを書きましょう。</li> <li>・今の自分があるのは、周囲の人の支えがあるからだということを考え、感謝の気持ちをもちたい。</li> </ul>	◇「思いやり、感謝」について、自分との関わりで多面的・多角的に考えていたか。 【ワークシート・発表等】

### (3) 他の教育活動との関連

○学級活動「文化祭を終えて」：合唱練習を通して、協力することの大切さ、仲間への感謝などを振り返らせ、今後の生活へと生かせるようにする。

## 5 授業の様子

### (1) 板書



### (2) 生徒の様子

- ・どんなときでも助けるのが支え合いではなく、時には見守ることも大切で、それが支え合いだと思います。
- ・相手の立場だったらどんな気持ちなのかを考えて、おせっかいにならない程度に相手を助けたいと思いました。
- ・誰かの一言で支えてもらったなら、次はその人に恩返しして、自分がその人を支えられるようになりたいです。

